

庭園間交流連携促進計画（探訪部門）

みよし野ガーデン 里山探訪

～ 里山・農・花を巡る旅 ～

2023年（令和5年）1月
みよし野ガーデンツーリズム協議会

取組の将来像（ビジョン）

①地理的特性

三芳町は東京都の中心地から 30km 圏内の埼玉県南西部に位置し、住民にとって誇りの源泉となる平地林や「三富新田」などの特徴的な緑地や耕地が多く残されている地域です。県庁所在地であるさいたま市から西に 7 km、東に志木市、富士見市、南東に新座市、南西に所沢市、北にふじみ野市、川越市と接しています。面積は 15.33 km²で、東西が約 5km・南北が約 3km と東西に長い菱形のような町域を呈しています。武蔵野台地北東部にあたり、町の西部域を関越自動車道が、東部域に国道 254 号（川越街道）がそれぞれ南北に縦貫しており、町域の東側には東武東上線が通っています。

②歴史的背景

本計画のタイトルにある“みよし野”。中世までは、武蔵野一帯は広い範囲でみよし野と呼ばれていました。三芳町の町名も、伊勢物語に登場するこの地名が由来となっています。芳野（美しい・うろわしい野原の意）に接頭語の「み」（とても）がついたものと考えられ、とても美しい草原が広がっているところの意味があります。

古代から中世には原野が広がっていた三芳の地域でしたが、近世になると開拓の手が入られます。これが、元禄 7 年（1694 年）川越藩主柳沢吉保の命による「三富新田」の開拓であり、上富村（現三芳町）・中富村・下富村（ともに現所沢市）が成立しました。

明治 22 年（1889 年）に、上富村・北永井村・藤久保村・竹間沢村の旧 4 カ村が合併して三芳村が誕生し（人口 2,829 人）、昭和 45 年（1970 年）には町制を施行しました（人口 14,476 人）。

三富新田をはじめとした武蔵野の豊かな自然に囲まれ、さつまいもの栽培を中心に農業を主とした純農村地帯であった三芳町は、昭和 40 年代からの高度経済成長とともに新興住宅の建設や工場の進出が進み、首都近郊のベッドタウンとして、また首都圏の流通拠点として発展を遂げつつも、豊かな農地と平地林を残し、現在に至っています。

③農業が生み出す自律的好循環

火山灰土からなる武蔵野台地の土壌は、水や栄養分に乏しく、季節風によって飛散しやすいため、作物の生育が難しく、江戸時代までは三芳周辺には広大な原野が広がっているのみでした。ここに、川越藩の開拓新田村の計画のもと、1 戸あたり約 5ha の屋敷地・耕地・平地林からなる短冊状の区画による「三富新田」が誕生しました。開拓にあたっては、落葉樹を中心とした人工林を形成し、建築材や農業資材としての用木、燃料となる薪を得るだけでなく、落ち葉を掃き集めて堆積したものを発酵させ、耕地に撒く肥料（堆肥）とします。また、平地林は帯水層への涵養機能も有しており、生活に欠かせない地下水の確保にも役立っています。このように多くの恩恵を与える平地林を地元では「ヤマ」と呼び、下草刈り（林床管理）や萌芽更新（樹勢管理）という手間をかけることによって、維持管理を行ってきました。その努力もあり、落ち葉堆肥を使った農法は 300 年以上経った現在にも受け継がれています。

落ち葉堆肥農法は、平地林（ヤマ）の落ち葉を掃き集めるという人手をかけることによって、耕地へ落ち葉堆肥を施肥することができ、栄養分の少ない土壌の改良が進み、その結果、耕地か

らは特産品で「富の川越いも」と呼ばれるさつまいもをはじめとした良質な作物が収穫されるという、循環型のシステムを形成しています。こうした自然の生態系を活かした環境に優しい循環型農業の継続性が評価され、平成 29 年（2017 年）には「武蔵野の落ち葉堆肥農法」として日本農業遺産に認定されました。

こうした価値を背景に、農業だけでない環境教育を備えた観光資源としてサーキュラーエコノミーを形成し、持続可能な継承と地域の活性化につなげていきたいと考えています。

④未来ビジョン

みよし野ガーデン里山探訪では、オープンフォレスト、オープンファーム、オープンガーデンの 3 つのコンテンツを掲げ、都市近郊で様々な価値に出会えるマイクロツーリズムにより、持続可能なシステムの継承と地域の活性化を実現することを目指します。自然観やリラクゼーションの価値を感じる探訪、紡がれてきた歴史に思いを馳せる探訪、今を生きる人々の新たな庭園文化に歴史の始まりを感じる探訪。様々な価値と出会い、共有することで、未来につなぐまちづくりを進めていきます。

➤ オープンフォレスト～地域に愛される里山風景～

平地林（ヤマ）は、各戸が敷地内で生活の中で手入れを行ってきた雑木の庭となります。堆肥のための落ち葉や燃料としての薪を手に入れる目的もありましたが、近隣や地域が一体となり、里山の風景としても作り上げられてきたものです。各戸では敷地内での大切な場所として、近隣との調和の中で四季を感じる空間づくりが行われ、代々に工夫が重ねられてきました。

しかし、近年、高度経済成長期には燃料は薪から電力などに移り変わり、平地林（ヤマ）の役割が生活から薄れるとともに、宅地開発や工場立地など都市化も進んできました。こうした中、都市近郊における貴重な里山の光景にある緑として価値が見直され、地域住民を中心として平地林（ヤマ）を保全するための様々な取組が進められています。周辺の都市化が進む中で、町では里山の光景を公園として残し、雑木の空間に親しむ場を作り出しています。

➤ オープンファーム～歴史が紡いだ農地風景～

かつて、関東ローム層に覆われた原野に平地林（ヤマ）を作り、循環型農法による土づくりが脈々と受け継がれてきました。当地域では肥沃な大地へと進化する農地が広がる一方で、都市近郊の開発も進み、農地の保全も将来への課題となっています。保全するためには、持続可能な農業経営を実現するとともに、都心部の住民との価値の共有も重要なことだと考えています。そこで、農家の生産資産となる土地への立ち入りは難しいものでしたが、広く魅力に気づく機会を創出するため、体験イベントや軒先販売の機会を通じて、循環型農法の価値や土に触れることでの体感、地割遺跡の特徴的な光景の実感が得られるオープンファームを推進いたします。オープンファームへの来訪により、農法や農産物への関心が生まれ、地産地消やブランド化につながることで農業経営の安定化や保全に対する理解が醸成されることを期待するものとなります。

また、当地域では里山風景と都市化の風景が狭い範囲で融合しています。そのような中で、農地にそばや菜の花などを植え、一般開放により散策や写真撮影を楽しむことができる取組が生まれています。遊休地を利活用することで、様々な色彩に触れることができ、地域住民が楽しみに

訪れます。都市の中で暮らす住民にとって、価値ある光景が作り出されており、現代が作り出した新たな視点による文化と考えられます。

都市部における農地保全の方策の一つとして、オープンファームをきっかけに、地域全体で歴史や魅力を共有し、新たな価値も加えていくことで、未来につないでいくことを目指します。

▶ オープンガーデン～生活に彩りをもたらす庭園～

その昔、武蔵野台地は茅原が果てしなき光景として、中世の書物に表されていました。その美しい野原が広がる“みよし野”と呼ばれていた土地では、開拓によりまちづくりが進められ、平地林や農地が織りなす里山の景色が作り上げられてきました。そして、人々の暮らしの中で、寺社は心の拠り所として親しまれてきました。現代では、里山景色を借景にした庭園も生まれ、誰もが四季の彩りを楽しめるオープンガーデンとして親しまれる場も生まれています。歴史を感じる凜とした庭園、里山で愛されてきた草花に出会える庭園、現代の魅力を取り入れた新たな里山の庭園など、訪れた人が様々な特色を楽しめるオープンガーデンが、当地域のマイクロツーリズムに色を添えます。地域を巡る中で、新たな探求心を生み出し、次の訪問につなぐことで、持続可能な観光システムを構築することを目指します。

「行く末は 空もひとつの 武蔵野に

草の原より 出づる月影」 (新古今和歌集)

かつて 武蔵野台地の“みよし野”には

美しい草の原が広がっていた



日本農業遺産
武蔵野の営み活用創設法

オープンガーデン

～生活に彩りをもたらす庭園～

オープンフォレスト

～地域に愛される里山風景～

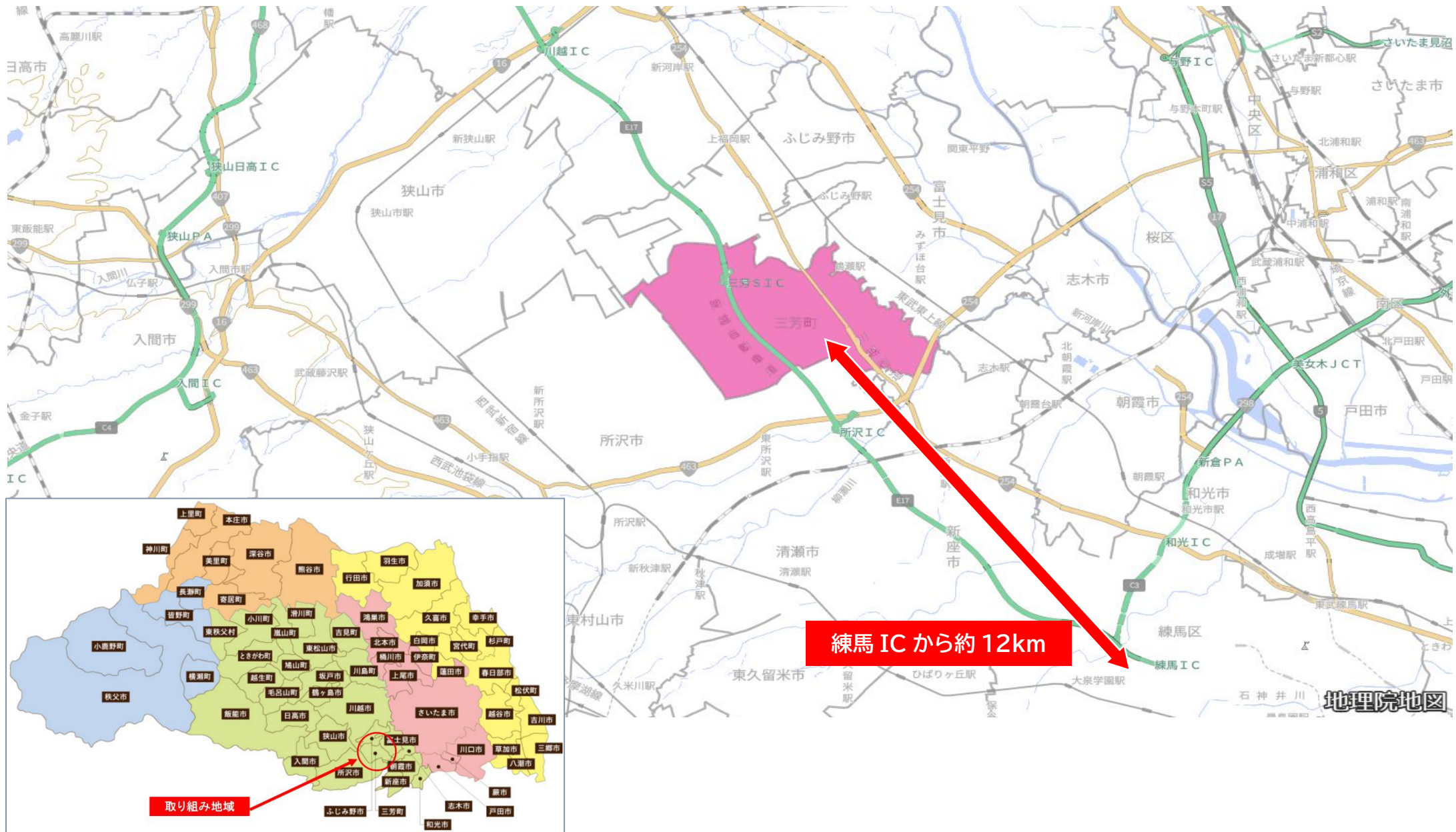
オープンファーム

～歴史が紡いだ農地風景～

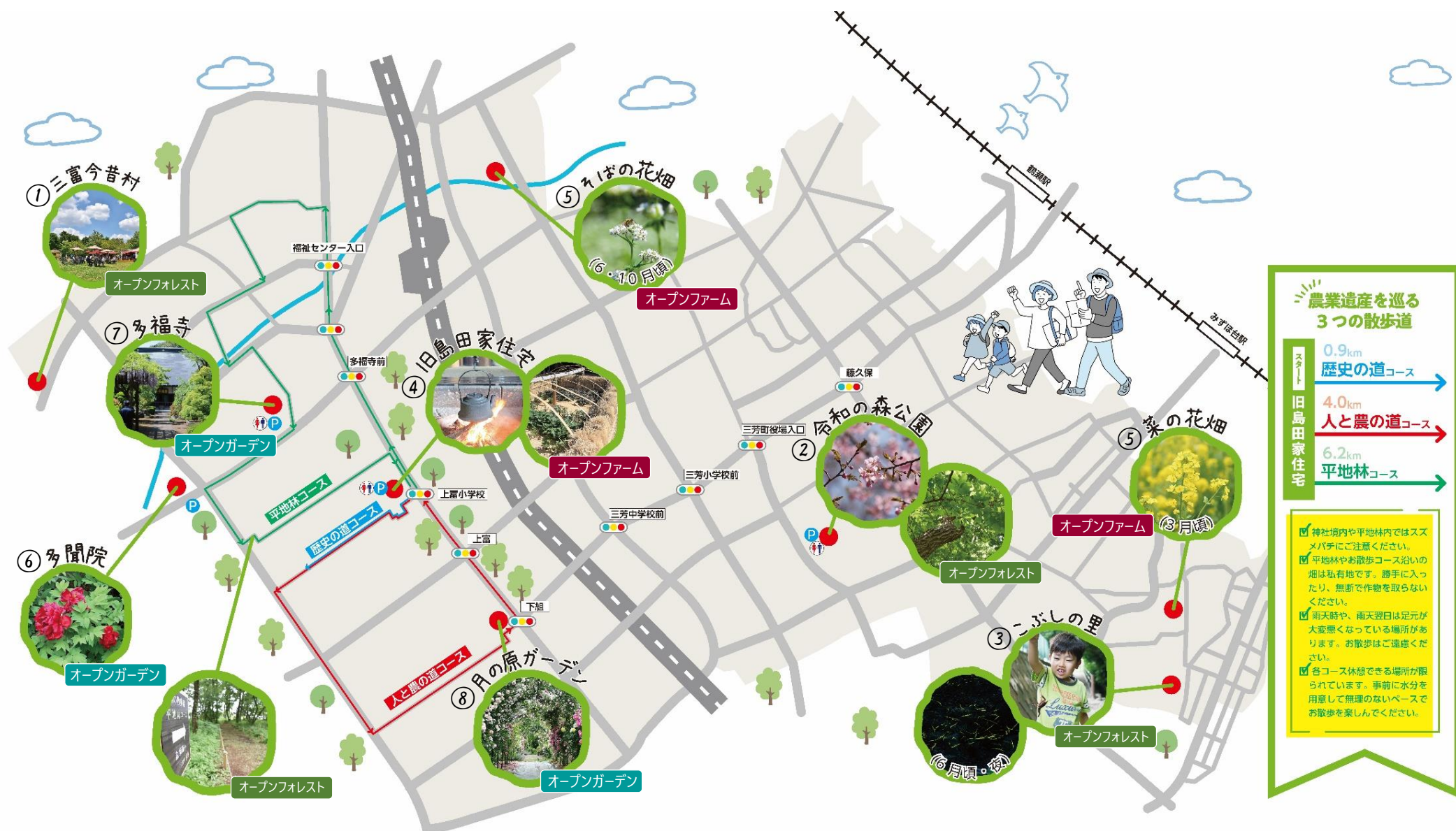


未来につなぐまちづくり

(様式1-3) 取組全体の範囲がわかる位置図(地図等)



構成する各園の位置図（地図等）



計画のテーマ

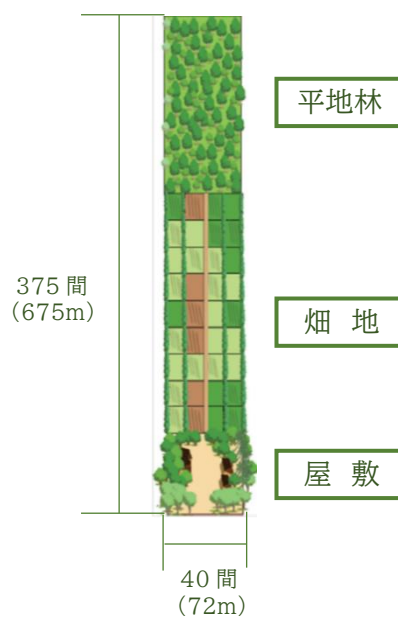
未来へ継承する価値に出会う探訪

○日本農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」

武蔵野地域の伝統的な農林水産業システムは、栄養分が少なく、水に乏しいなど農業を行うには非常に厳しい自然条件のなかで、屋敷地・畑地・平地林を計画的に配置し、その平地林から生じる落ち葉を堆肥化し、それを畑地にすき込み土壌改良を行うことにより生産性が高い畑地を生みだし、安定的な農作物の栽培を可能とした「落ち葉堆肥農法」です。このシステムが都市近郊でありながら、生態系機能をフル活用した持続的な農業であるということが、世界的にも価値あるものとなっています。



システムが生み出すランドスケープ（近景）



屋敷地と畑地と平地林がセット
になった特徴的な地割（模式図）

落ち葉堆肥農法というシステムにより、現在でも開拓当時の広い畑地において、多種多様な農産物が生産され、市場に出荷されています。また、ここで生産された農産物は加工もされており、他産業との連携のなかで、関連産業への広がりも有しています。このシステムを維持するために毎年行われている平地林の落ち葉掃きなどの林床管理や落ち葉の堆肥化は、豊かな春植物を生み出すとともに、多様な鳥類や昆虫の生息の場を生みだし、さらには多様な土壌微生物も生み出しています。



キンラン



オミナエシ



レンゲツツジ

本地域のランドスケープの特徴は、約 360 年前の江戸時代前期に、優れた農村計画によって自然条件の厳しい土地を畑作地帯として開発した事に始まります。そこには、自然と共生しながら、人々が安寧に生活できるよう、知恵と工夫が詰まっています。

都市近郊にありながら暮らしとともに日本農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が残る当地域には、世界各国から視察に訪れています。平成 7 年の世界地理学連合会では 25 か国 46 人の農業・農村地理学の研究者が持続的農村システムに関するつくば国際会議のエクスカージョンとして訪れ、平成 26 年、令和元年には JICA の取り組みとして、セネガルの国家エコビレッジ庁長官やアフリカ各国の農政に携わる行政官が農産物の 6 次産業化やアグリビジネス振興を目的に視察に訪れています。世界農業遺産に認定されることで、更に世界的認知度が高まり、海外からの来訪が増えるポテンシャルを有しています。

【主な視察実績】

訪問年	来訪者	視察の目的
平成 7 年 (1995 年)	世界地理学連合 (IGU)	知識システム研究
平成 26 年 (2014 年)	JICA (セネガル国家エコビレッジ庁長官)	農業システムと農産物の 6 次産業化
平成 29 年 (2017 年)	東京大学・ニューメキシコ大学・アメリカ農家	持続可能な社会モデル
令和元年 (2019 年)	JICA (アフリカ各国の行政官)	アグリビジネス振興
その他	韓国	落ち葉堆肥農法によるさつまいもの作り方
その他	中国北京大学	都市化と農業との土地利用のあり方

この里山探訪では、落ち葉堆肥農法の価値が人を惹きつけ、絶滅危惧種などの珍しい動植物に出会える機会、江戸時代の里山の暮らしに触れる機会、SDGs の実現に向けて持続可能な社会について考える機会など、探求心を高めるツーリズムとなります。

また、味覚の秋には、落ち葉堆肥による「ふかふかの土」から生まれたさつまいもが注目を集めます。TV などのメディアが毎年取り上げ、軒先にのぼりが立ち並ぶ“いも街道”は、さつまいもを求める多くの来訪者で賑わいます。

視察をはじめとする知的好奇心を求める人、食と農を求める人など、様々な目的が相まった集客に応えるためにも、当地域における羅針盤となるガーデンツーリズムとして、歴史や文化、風景も含めた価値を伝えていくことが求められます。

みよし野ガーデン里山探訪では、都市近郊における平地林や農地を未来に継承する試金石となる方策として、みよし野の“オープンフォレスト” “オープンファーム” “オープンガーデン” を提唱いたします。

オープンフォレスト

～ 里山を歩く ～



武蔵野の落ち葉堆肥農法とともに継承されてきた平地林は、都市で暮らす住民にとって魅力的な空間が広がっています。そこで、林床管理がされ、散策や体験ができる平地林を“オープンフォレスト”として位置付け、みよし野ガーデン里山探訪の醍醐味の一つとしています。

○農業遺産により生まれたオープンフォレスト

地域の平地林は、開拓当初、広い畑地と同等程度の面積がありました。本地域の地力の低い土壌を改良するため、広い平地林は不可欠でした。平地林には、クヌギ、コナラ、エゴノキなど、薪材や落ち葉堆肥になりやすい落葉広葉樹が中心に育てられました。美しい平地林の景観は、本地域では農用林として人が樹種を選定して林分管理をしながら育成してきたからこそ生まれた「用の美」であり、単なる美しい自然景観ではないのです。

個々の農家の里山としてレイアウトされた平地林は、農業と農村生活を支える農用林でした。農家では、光が林床に届くような剪定や老木の伐採、萌芽更新を繰り返し、代々に渡り工夫を重ねてきました。そこには、単なる自然景観ではなく、大切に手を入れ育成し続けてきたからこそ生まれた「用の美」が息づいています。そして現在、当地域は大都市近郊地域におけるオープンフォレストとして、都市住民の健康保養やレクリエーション機能、環境教育などの多面的・公益的な機能も担っています。

歴史とともに受け継がれてきた平地林を残したいという地域の願いは、様々な活動に表れています。「三富落ち葉野菜研究グループ」などの農業者団体や「武蔵野の未来を創る会」などのNPO法

人、みよしグリーンサポート隊や落ち葉サポーターなどの地域ボランティア、石坂産業(株)をはじめとする町内企業、「三富地域農業振興協議会」のJ A・県・市町といった行政など、様々な主体者がそれぞれ市民参加の落ち葉掃きを企画し、平地林の機能や落ち葉掃きの技術、知恵を伝えています。落ち葉サポーターは、農家からのサポート願いがあった際に、落ち葉掃き活動に参加する制度となっており、こういった地域住民の参加・協力により平地林が守られています。

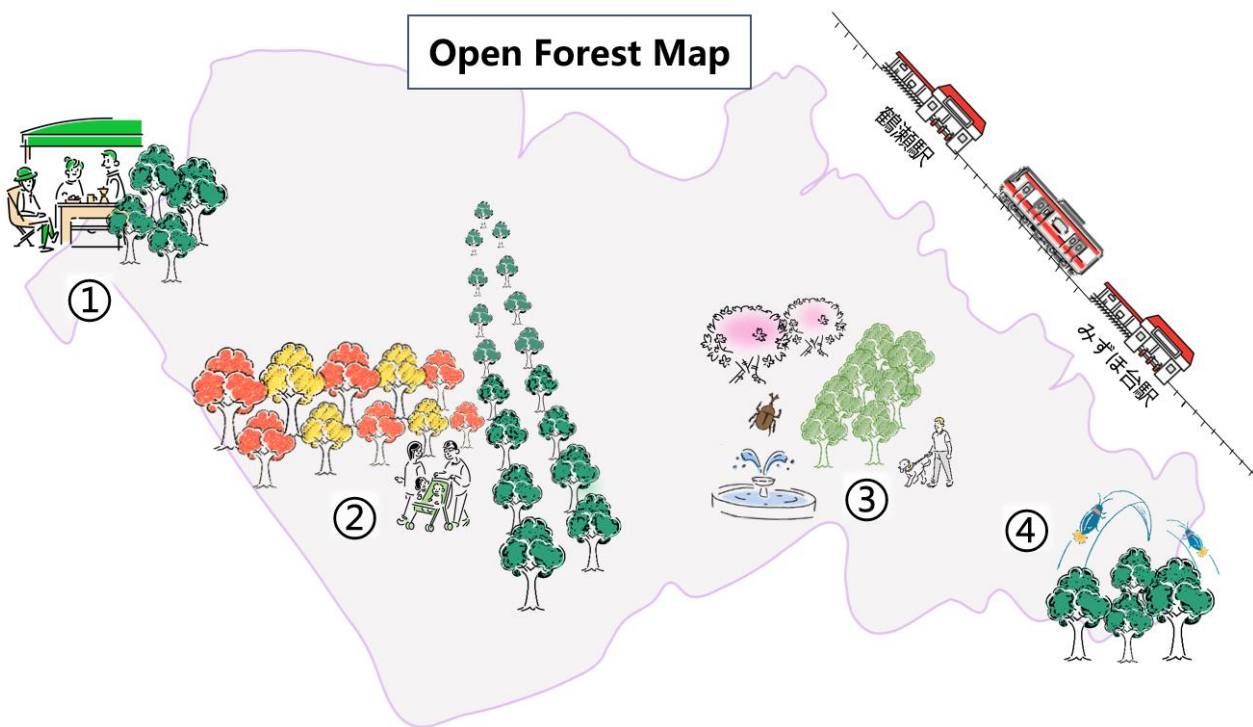
また、三芳町では平地林をトラスト保全地とし、公有地として取得しています。誰でも散策できる緑の空間は、オープンフォレストとして今後の平地林の保全のあり方を示ものとなっています。その他、町が取得した平地林だけではなく、住民保有の平地林をも活かす取組みを行っています。町が地権者から平地林を借り、散策コースとして整備することで、より多くの方がオープンフォレストを感じていただけるような取組みを実施しております。



市民参加の落ち葉掃き



オープンフォレスト



①三富今昔村	②農業遺産を巡る散歩道（平地林コース）
③令和の森公園	④こぶしの里

○オープンフォレストでの体験型イベント・事業

オープンフォレストでは、落ち葉堆肥農法を感じる体験や、未来への継承を担う子どもたちの記憶に残る体験、自然を感じるレジャーなど、里山探訪のモチベーションを高める様々な機会を用意しています。

■農業塾

落ち葉堆肥農法に関する学習や、野菜の種まき・肥培管理・収穫などの一連の農作業におけるノウハウを地域の指導農業士から教わることができます。



■落ち葉掃き体験

冬に開催される落ち葉掃き体験では、平地林の機能や落ち葉掃きの技術、知恵を学ぶ機会となり、大人から子どもまで、汗をかきながら楽しむことができます。



■平地林内レジャー

令和の森公園内には平地林の散策を中心に、バーベキュー場やアスレチック施設、噴水の出る水辺広場などの様々なレジャーを楽しむことができます。その他、築山やドッグランも併設されており、特に夏の時期には、子どもたちを中心に一日中楽しむ姿が見られます。



■体験型イベント

子どもたちが参加できるイベントが各種開催され、感受性を磨く体験の場となります。丸太切り体験やクラフト体験、生物観察など、当地域の自然に触れ、学びながら体験できる内容となります。

また、小中学生を対象に自由研究に役立つプログラムもあり、生態系学習やサバイバル体験、SDGsに関する学習などが用意されています。(プログラムは年によって内容の変更・新規追加・終了をする場合があります)



■制作イベント

三富今昔村では、地域から採れる自然の素材を使った製作物をつくることのできるイベントを季節ごとに開催しています。(イベントは年によって内容の変更・新規追加・終了をする場合があります)



【イベント（一例）】

春：里山の枇杷で草木染め

里山の野花で化粧水づくり

夏：里山の素材で作る水鉄砲づくり

秋：里山の木でMy 箸づくり

冬：里山の木の実でツリーづくり

里山のハーブでしめ縄づくり



オープンファーム

～ 受け継がれる農を体験する ～



江戸時代の都市計画が生み出した地割の景観は当地域の特徴となります。オープンファームは、特徴的な地割の風景、循環型農法とともに継承されてきた実際の土の感触、美味しい味覚、地域との交流を楽しむ農地として位置付けているものです。

○歴史ある農地の魅力

近世の都市計画が作り出した細長い区画は、農地の長い畝から感じることができます。そして、落ち葉の堆肥から脈々と積み重ねてきた土を触ってみるとその柔らかさに驚きを覚えます。そのふかふかの土で作られた農産物を想像し、食欲を掻き立てられることも醍醐味になります。通常、農地は所有者によって管理されており、中に入る機会は限られたものとなります。みよし野オープンファームでは、農家の協力を広げる中で、様々な体験の機会を創り出していきます。



○新たな庭園文化のはじまり

里山の光景を残すため、現在の知恵による花の風景も生まれています。循環型農法から生み出された豊かな土壌により、多種多様な作付けが可能になりました。一方で離農者、後継者不足から遊休農地が増加し、景観が変わってしまうことは避けなければならない大きな課題となります。

こうした中、遊休農地を活用した作付けにより、色鮮やかな景色を創り出す貴重な取組が生まれています。近年、その景観を楽しむ来訪者も多く、一般開放し、園内の散策や写真撮影を楽しむことができる取組が生まれました。都市化と共に、農地からの土の飛散防止なども求められる中で、先人たちと同様に農家の工夫がもたらした発想であり、当地域の特色として発展していくことが期待されています。

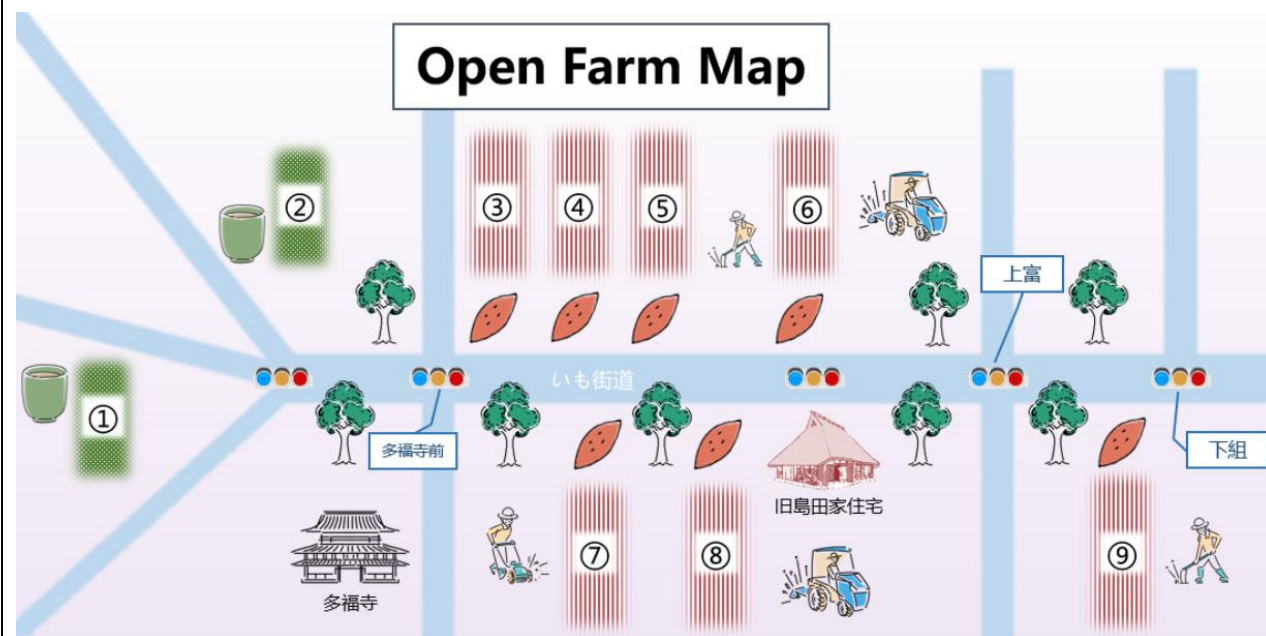


○オープンファームでの体験型イベント・事業

オープンファームでは、落ち葉堆肥農法を学ぶ機会、そしてその農法で育った野菜や果実の収穫体験など、頭と体で当地域の特徴を感じることもできる機会を用意しています。

■地割見学・農家訪問

実際に農家を訪問し、当地域の特徴である長い畝の地割や平地林から集めた落ち葉を堆肥にする堆肥場等を見学することができます。（協力農家に限る）



① 鈴木園	② 田畑園	③ かどの島田園
④ 早川園	⑤ いも早川	⑥ 井田農園
⑦ 早川農園	⑧ 江戸屋弘東園	⑨ はやし園

■農業遺産コーナー

旧島田家住宅に隣接する農業センターでは、農業遺産コーナーがあり、遺産に関する情報収集や歴史を学ぶ場となっています。



■いも掘り体験

落ち葉堆肥農法による土を直接触ることができ、当地域の大地の起源を感じていただく体験となります。「世界一のいも掘りまつり」も地域内外から多くの方が訪れるイベントとなっております。



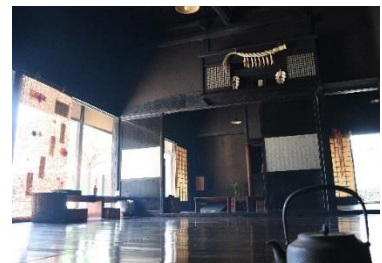
■野菜収穫体験

さつまいも以外にも、当地域の肥沃な土によって育まれた様々な新鮮野菜や果物の収穫体験をすることができます。（枝豆・トウモロコシ・ブルーベリー・キウイフルーツ等）



■農泊体験ツアー

協力農家の畑にて開催するイベントとして、いも掘り体験やみよし野菜を使ったBBQ、テント・古民家での宿泊体験ツアーを検討してまいります。



■茶摘み体験・製茶体験（予定）

当地域は狭山茶の産地でもあります。農家協力の元、茶摘みや製茶体験などを準備しています。

オープンガーデン

～ 花を愛でる ～



当地域のオープンガーデンは、江戸時代から続く寺社境内や落ち葉堆肥農法から生まれた大地で織りなす現在の魅力を合せたガーデンなど、地域から親しまれ、誰もが入ることができる庭となります。古くから里山で愛されてきた草花や四季を感じる庭木、色鮮やかな花々など様々な趣向を取り入れたガーデン巡りを実現します。

○開拓時から地域を精神面で支えてきた寺社

この地域には開拓農民のために、精神的な支柱となる2つの寺社が元禄9年（1696年）に建立されました。1つは開拓農民の菩提寺となる多福寺、1つは祈祷所となる毘沙門社（別当として多聞院）であり、地域の葬祭だけでなく、生活にも深く関わる信仰・文化の拠り所となりました。地域とともに歴史を重ねてきた寺社の境内は、武蔵野の面影を残す平地林や貴重な植物も生育しています。地域の住民は四季折々の風景に触れる境内散策に訪れ、現在も心を穏やかに過ごす場となっています。



開拓農民の心の拠り所である
菩提寺の多福寺



開拓農民の祈願所の
多聞院毘沙門堂

里山の暮らしでは、身近な草木が親しまれてきました。多福寺に隣接する開拓以前から信仰を集めた木ノ宮地蔵堂では、107枚の天井絵に山野草や作物が描かれており、当時の暮らしとのつながりを感じることができます。現在は絶滅危惧種にもなっている山野草が、当地域のガーデンツーリズムでは寺社の境内や平地林（ヤマ）で出会うことができます。



木ノ宮地蔵堂の107草木の天井画



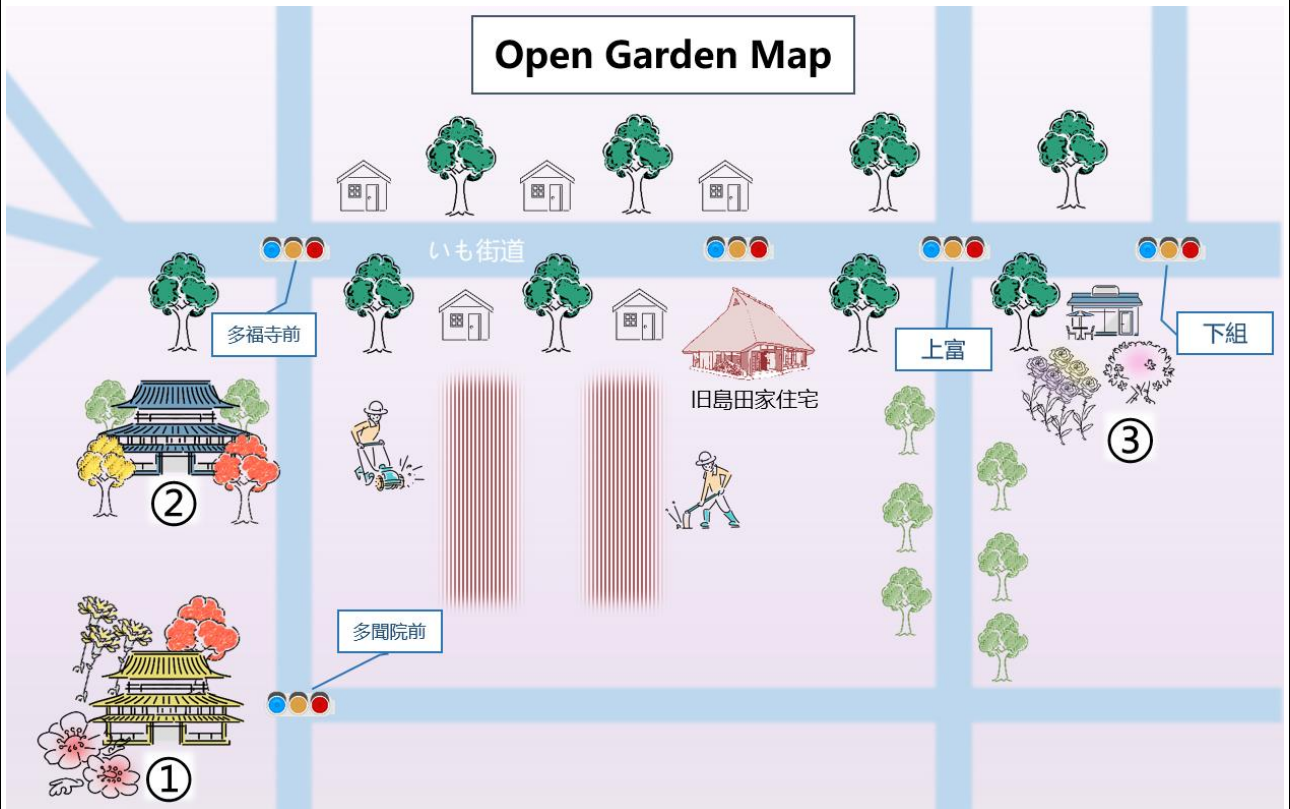
天井画
(上はヤブカンゾウ、下はヤマユリ)

○新たな庭園文化の始まり

循環型農法が継承される当地域では、敷地内で農地を借景としたガーデンを整備し、来訪者の目を楽ませる新たな魅力づくりが生まれています。特徴的な三富のランドスケープを背景にしたガーデンには、受け継がれてきた歴史に現在の魅力が融合し、新たな文化の創造を感じることができます。



月の原ガーデン



①多聞院	②多福寺
③月の原ガーデン	

探訪プランイメージ

○探訪の出発拠点

みよし野の地を探訪するにあたり、地域の歴史や文化を学ぶことができる拠点を出発地としていただくことで、探訪がより計画的で充実したものとなります。

三富今昔村 くぬぎの森 (オープンフォレスト)



旧島田家住宅 (オープンファーム)



五感で学ぶサステナブルフィールドとして、埼玉県で唯一「体験の機会のある場」の認定を受けたフィールドであり、当地域の特徴や歴史が詰まった縮図のような施設となります。

資料館「三富今昔語りべ館」や交流プラザにて当地域の特徴を学んでいただいた後は、施設内の平地林・農園を散策いただき、各種体験プログラムや食材を通して、当地域の魅力を感じていただけます。

里山の庭先を感じることができる施設であり、古民家内は開拓の時代にタイムスリップしたかのような空間が広がります。

隣接する農業センターには、農業遺産コーナーがあり、武蔵野の落ち葉堆肥農法について深く学習することができます。まずは当地域の伝統農法を学び、その後各施設へ探訪していただくと、より当地域ガーデンツーリズムの魅力を感じていただけるようになっております。

アクセス方法

自動車：関越自動車道 三芳スマートICから約9分※
送迎バス：東武東上線「ふじみ野駅」西口、西武線「所沢駅」東口

アクセス方法

自動車：関越自動車 三芳スマートICから約5分※
バス：ライフバス「上富小学校」下車

※三芳スマートICは2022年10月現在、ハーフ運用のため、下り車線(新潟方面)は入口のみ、上り車線(東京方面)は出口のみの利用に限ります。三芳スマートICはフル化に向けた整備を進めております。

○季節ごとのオススメ探訪ルート

【春】

三富今昔村（地域の特徴を学習・各種体験プログラム・地場産野菜グルメ）⇒ 多福寺・多聞院（牡丹やきんらん鑑賞）⇒ 月の原ガーデン（バラ園鑑賞）⇒ 帰路へ



三富今昔村



多福寺・多聞院



月の原ガーデン

<春を満喫コース>



令和の森公園



菜の花畑



こぶしの里

令和の森公園の桜や菜の花畑を鑑賞した後は、日没後にこぶしの里にてホテル観賞（6月頃）



狭山茶の茶摘み体験や、縁日にはキッチンカーでのお茶を使ったオリジナルメニューを味わえる。

【夏】

旧島田家住宅（農業遺産コーナーでの学習・そば打ち体験） ⇒ そばの花畑（鑑賞） ⇒ いも街道（そば屋にて昼食） ⇒ 令和の森公園（水辺広場・アスレチック・平地林散策） ⇒ 帰路へ



旧島田家住宅

そばの花畑

いも街道（そば）



＜遊び尽くしコース＞



三富今昔村

食べられる野草でサバイバル体験や夏の夜祭りなど、夏ならではの体験型プログラムが多数



令和の森公園

【秋】

出発拠点（旧島田家住宅） ⇒ 多福寺・多聞院（紅葉鑑賞） ⇒ 月の原ガーデン（秋バラ鑑賞・いも掘り体験） ⇒ 月の原ガーデンにて昼食 ⇒ いも街道にて食べ歩き・地場産品買い物 ⇒ 帰路へ



多福寺・多聞院

月の原ガーデン

月の原ガーデン



＜おいもフルコース＞



（イメージ動画）

秋には、街道沿いにのぼりが立ち並び、地域外からの来訪者で賑わう光景が広がります。この時期は農家の家に直接入る機会となり、地割遺跡の屋敷地を感じることができます。また、さつまいもや枝豆など収穫体験のメニューでは、実際に農地に入る機会となり、長い畝を見ながら、ふかふかの土に触れる貴重な体験が待っています。

【冬】

多福寺（落ち葉掃き体験） ⇒ 多聞院（冬の植物鑑賞等） ⇒ 三富今昔村（地域の特徴を学習・火育プログラム体験・各種イベント・焼きいもや地場産野菜グルメ等で昼食） ⇒ 帰路へ



多福寺



多聞院



三富今昔村

＜ゆったりコース＞



旧島田家住宅

囲炉裏で暖をとりながら、
古民家の落ち着いた雰囲気
を楽しむことができます。



（施設紹介動画）

農業遺産を巡る散歩道

三富地域の地割は特徴的なランドスケープとなっており、実際に歩いて感じることができる散歩コースを3種類設定しています。平地林コースには、住民保有の平地林を町が借り、整備した箇所もありますので、お気軽に散策していただけます。

～農業遺産を巡る3つの散歩道～

① 歴史の道コース 0.9km

② 人と農の道コース 4.0km

③ 平地林コース 6.2km



各コースの曲がり角には看板が設置してあります。



お散歩 注意事項

- ☑ 上富地域は林が多いため、スズメバチが多く確認されています。夏～秋の神社境内や平地林内では特にご注意ください。
- ☑ 平地林やお散歩コース沿いの畑は私有地です。勝手に入ったり、無断で作物を取らないようにお願いします。
- ☑ 畑沿いを歩く際、農家の方の作業車両が止まっていることがあります。ご了承ください。
- ☑ 各コース休憩できる場所が限られています。事前に水分を用意して無理のないペースでお散歩を楽しんでください。
- ☑ 雨天時や、雨天翌日は足元が大変悪くなっている場所がありますので、お散歩はご遠慮ください。
- ☑ 団体で散歩道を利用される場合は、一度三芳町観光産業課までご連絡をください。

※野菜等の鮮先販売は別紙「おいでよ！いも街道」をご覧ください。



地図アイコン

- | | |
|---------|---------|
| 🍵 お茶直売所 | 🍽️ 飲食店 |
| 🏯 神社 | 🏥 病院 |
| 🗿 寺院 | 🚗 駐車場 |
| 🌳 公園 | 📍 交差点 |
| 🚶 バス停 | 🏠 施設等 |
| 🚻 トイレ | 🎓 小・中学校 |
| 🌿 けやき並木 | 🏛️ 記念碑 |



紅葉の多福寺



夏の平地林



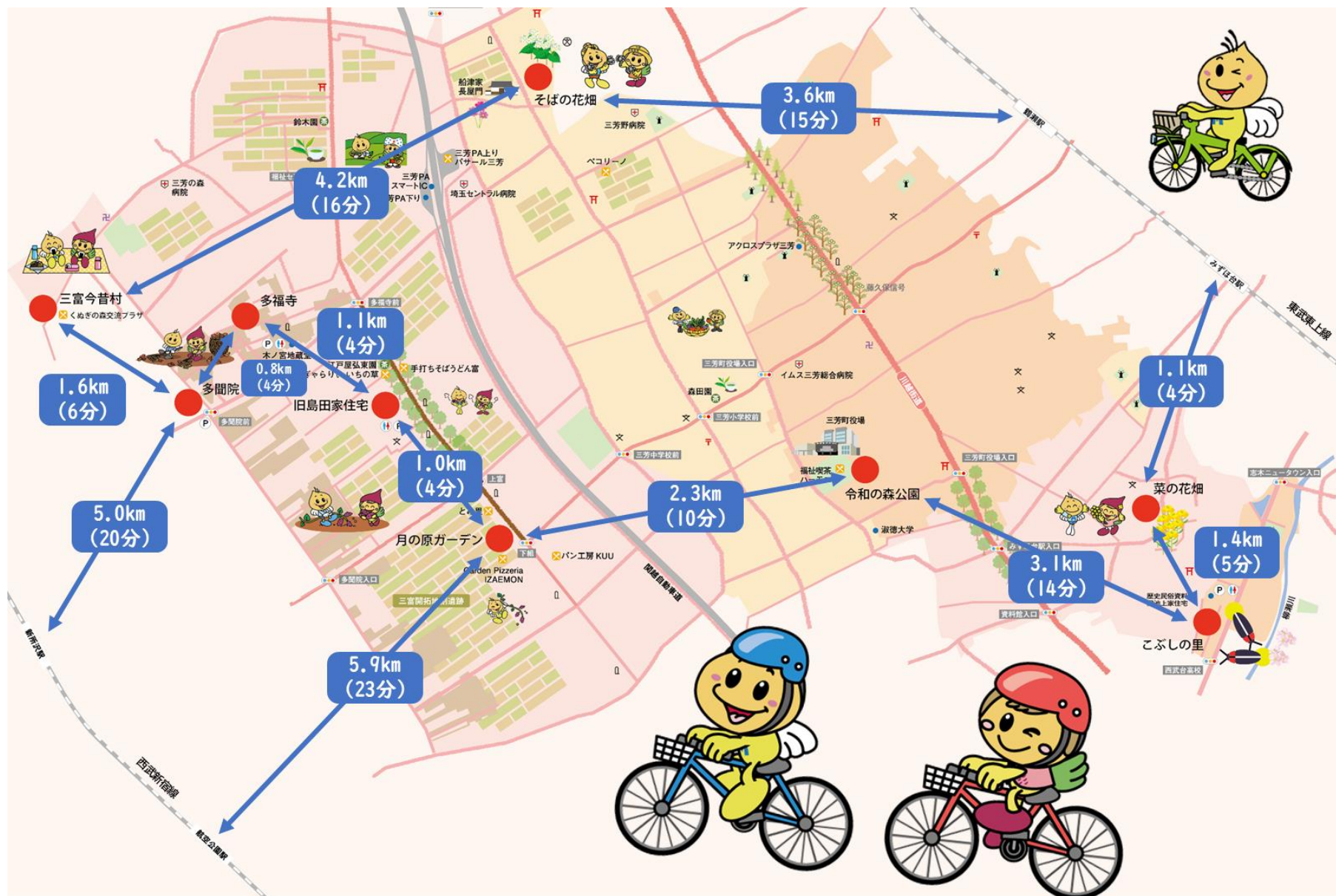
最盛期のいも畑



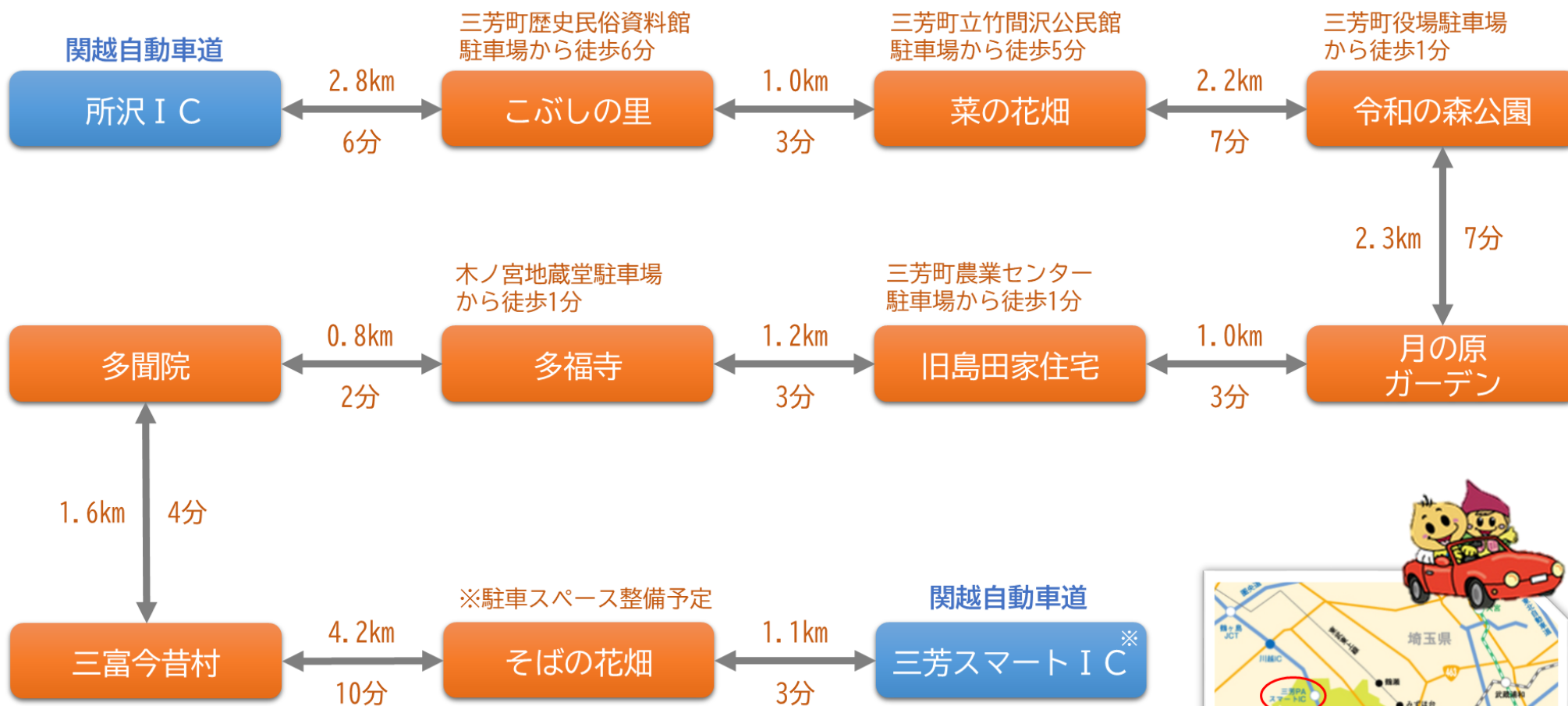
けやき並木通り(いも街道)



自転車での各庭園移動距離と時間



自動車での各庭園移動距離と時間



※三芳スマートICはハーフ運用のため、下り車線（新潟方面）は入口のみ、上り車線（東京方面）は出口のみの利用に限ります。
 （三芳スマートICはフル化に向けた整備を進めております。）
 東京方面へ向かう際または東京方面から降りる際は、所沢ICをご利用ください。



○伝統農法を感じる食

落ち葉堆肥農法により生まれた土壌は、「ふかふかの土」が特長となります。この土は作物の根張りを助け、しっかりとした野菜が育ち、「日持ちの良い野菜」として市場評価も高いものとなります。

当地域のガーデンツーリズムでは、この伝統農法により育まれた食材や、その食材を使った様々な料理を「食す」ことでその歴史や文化を感じていただけます。

■富の川越いも

当地域のさつまいもは、江戸時代に「九里（栗）よりうまい十三里（川越藩までの距離）」との言葉が残るほど人気が高く、現在も「富の川越いも」とのブランドで販売されています。収穫期を迎えた秋には庭先販売が賑わい、その農家が軒を連ねる道は「いも街道」と呼ばれています。

このさつまいもを使った様々な料理や6次産業品もあり、さつまいも品種紅赤を使った酒類や菓子が人気となっております。



■みよし野菜

伝統農法により生まれた土壌は、さつまいもだけでなく様々な作物を育てます。当地域では、この大地が育んだ美味しくて高品質な野菜を「みよし野菜」としてブランド化し、地域内の直売所やJA、サービスエリア（パサール三芳）などでも販売しております。また、このみよし野菜を使った様々な料理や野菜の天然酵母を使用したパンなども味わうことができます。月の原ガーデンでは、オープンガーデンやファームを眺めながら、庭先でこの野菜を使った料理を楽しむことができます。



■オーガニックファームで育った固有種野菜（三富今昔村）

当地域には、自社農園にて伝統農法である落ち葉堆肥農法を実践している企業があります。地域の風土に合わせて根付いてきた「固有種」と呼ばれる野菜を栽培しています。形や味に個性があり、昔ながらの野菜本来の味がします。旬の新鮮野菜を使った季節ごとのメニューを味わうことができ、里山と土と野菜のつながりを、五感で感じることができます。



■蕎麦

当地域では、豊かな土壌にも関わらず農業の担い手不足等により遊休農地となってしまった土地を活用した蕎麦栽培が盛んです。そば畑には白い可憐な花が一面に咲き誇り、来訪者の心を癒します。

収穫した蕎麦はそばの実・そば粉を加工し、地元のお蕎麦屋さんを中心に納品されているため、その魅力を味わうことができます。



■狭山茶

豊かな大地を有する当地域は、狭山茶の名産地でもあります。農林水産大臣賞や宮内庁御用達など、各方面から高い評価を受けています。お茶屋では6次産業品として緑茶以外の様々な加工品も取り扱っており、その地ならではの味を楽しむことができます。



販売所・食事処等地図

いも街道詳細MAP

上富小学校 (Uchitomi Elementary School)

販売所・食事処等

- かどの島田
- 島田園
- 川口園
- 早川園
- いも早川
- 中町農園
- 武田園
- 武修
- 武田農園
- 手打ちそばうどん堂
- 宮公農園
- 宮寺園
- 青木園
- 高橋農園
- 井田農園
- 武直園
- 武田農園
- むさし野自然農場

その他

- オアシスかどや
- Garden Pizzeria IZAEMON

多福寺交差点 三芳スマートIC
上富小学校
下相 多福寺交差点から下相交差点までは歩いて20分くらいです。

三富今昔村

パサール三芳

福祉喫茶ハーモニー

パン工房 KUU

いも街道

パサール三芳 (Park 3)

福祉喫茶ハーモニー (Welfare Cafe Harmony)

パン工房 KUU (Bakery KUU)

三富開拓地前通

多福寺交差点

三芳PA スマートIC

三芳PA下り

三芳町役場入口

イムス三芳総合病院

三芳小学校前

三芳中学校前

三芳町役場

三芳町夜場入口

みずほ台駅入口

資料館入口

三芳PA KUU

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	さんとめこんじゃくむら 三富今昔村 くぬぎの森 オープンフォレスト	構成庭園の 所在地	埼玉県入間郡三芳町大字上富 1589 番地 2 (ふじみ野駅・所沢駅から送迎バスあり)
1 構成庭園 の概要 (※2)	<div data-bbox="419 423 1409 1032" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="405 1055 1442 1507"> 【開園面積】 20ha 【入園料金】 <土・日・祝・特定日> 大人(18歳以上)800円(税込) <特定日以外の平日> 大人(18歳以上)500円(税込) ※学生証を提示いただくと18歳以上でも入村料は免除となります。 【公開時期】 通年(火曜定休日、年末年始・お盆休み・6月連休あり) ※詳細は三富今昔村 HP をご参照ください。 【施設管理者】 石坂産業株式会社 【その他】 荒廃した地域里山を、複数の地権者と協働し、“美しい武蔵野の里山景観”の保全再生に取り組み、身近に里山の自然に触れ、環境について考える場を地域の方に提供するため、サステナブルフィールド「三富今昔村」として2016年から一般開放をしています。園内は多様な視点によりゾーニングがされており、庭園を散策しながら、来園者が五感を通じて発見する楽しみを生み出しています。 </p> <div data-bbox="1257 1256 1426 1420" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1257 1435 1409 1462">(施設紹介動画)</p> <ul data-bbox="419 1541 1442 2051" style="list-style-type: none"> ➤ 「育(はぐくみ)のヤマ」・・・15年に一度伐採更新をして除間伐、下刈り、落葉掻きなど伝統的な管理を継承しつつ、生物多様性を高める管理を行っているゾーン ➤ 「風のヤマ」・・・高木を伐採せず下刈りや落葉掻きなどにより生物多様性を高めているゾーン ➤ 「陽(あかり)のヤマ」・・・リンドウやシュンランなどの貴重な植物を楽しむことができるとともに、木漏れ日の中を子どもが駆け回ることができるゾーン ➤ 「香(かおり)のヤマ」・・・アジサイ、シャクナゲ、ツツジ、ヒガンバナ、レンギョウ、シャクヤク、ヤマユリなど四季色とりどりの花が楽しめ、冬はファイヤーサークルが楽しめるゾーン ➤ 「伝(でん)のヤマ」・・・地権者の方が代々管理をし続け、リンドウやセンブリ、オオバノトンボソウなどこの地域ならではの里山の多様な植物がみられるゾーン ➤ 「光(ひかり)のヤマ」・・・野草ガーデンや低木の林内で、エシカルショップ「オークリーフ」やアニマルウェルフェアに配慮した環境で育つ鶏たちの姿を楽しめるゾーン 		



(里山探訪の見どころ)

三富今昔村は、環境省が「体験の機会のある場」として認定した質の高い体験プログラムを提供するフィールドです。江戸時代の循環型社会の名残が残る三富の地域で、里山の暮らしを体験しながら学ぶ里山体験プログラムなど、多彩なプログラムが開催され、未来に向けた行動を起こすきっかけを生み出しています。

(イベント情報)

- さくらHANAまつり (春)
ヤマザクラや早春の草花について解説する里山ガイドウォーク、狭山茶のお抹茶で一服いただく里山茶会、小さいお子様向けの「花咲かじいさん探し」などのプログラム
- 里山の“生態系サークルマップ”づくり (夏)
里山に暮らす生物を調べ、マップにする小学生の自由研究に向けたプログラム
- 食べられる野草でサバイバル体験 (夏)
食べられる野草の見分け方や食べ方を学び、実際に料理するプログラム
- SATOYAMA アウトドアナイト (4月～11月中旬)
夜の里山の虫の音と焚火の揺らぎに囲まれ、音楽の生演奏を聴きながら、自家製の採れたてオーガニック野菜やアニマルウエルフェアの平飼卵を使った料理やBBQを楽しめるプログラム



(地域参加)

2012年より毎年2月の日曜日に地域の方にも参加いただき、落葉掃き体験を開催しています。昔ながらの道具である熊手や手箕を貸出しており、竹で編んだ大籠「ロップン」、「ハッポン」に詰め、子どもたちが上から落葉を踏み固め、転がして運搬するなど、地域の伝統文化を楽しみながら体験できる機会となっています。

毎年7月24日には地域の方々への感謝を込めて、里山の夜の風情を愉しむ「夏の夜祭り」を開催しています。夏祭りでは地域の団体による演技、縁日で賑わいます。またライトアップされた夜間のミニSLも運行され、夜の里山の雰囲気を楽しむ貴重なひと時をお過ごしいただけます。



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

- 農業遺産により生まれたオープンフォレスト
情報発信だけでなく、その歴史や文化を五感で感じることができる平地林・農園・各種体験プログラムが用意されています。

<p>ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)</p>	<p>れいわ もりこうえん 令和の森公園 オープンフォレスト</p>	<p>構成庭園の 所在地</p>	<p>埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1112 番地 1 (ライフバス『三芳役場』下車)</p>
<p>2 構成庭園 の概要 (※2)</p>	<div data-bbox="395 338 1449 1016" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="405 1059 1209 1218"> 【開園面積】 4.1ha (緑地公園・緑のトラスト保全第14号地) 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 三芳町 【その他】 </p> <p data-bbox="389 1223 831 1666"> 令和の森公園は、都市近郊における貴重な緑、花が多く整備され、散策、レクリエーションなど、多くの方が親しむ場所となっています。園内の緑のトラスト保全第14号地(平成27年度指定)は、江戸時代から継承されてきた平地林(ヤマ)を後世に継承するため公有地化され、平成30年度から一般公開しています。平地林には、埼玉県の絶滅危惧種であるキンラン、サイハイランなどの希少種が自生し、里山の草花を楽しむ貴重な場所です。 </p> <p data-bbox="389 1671 831 1863"> また、園内の一画には、東屋やベンチが整備され、四季折々に花が咲いています。そして、園内の遊歩道周辺は、春には桜やユキヤナギが咲き誇る色鮮やかな空間に包まれ、花見の名所となっています。 </p> <div data-bbox="847 1151 1449 1576" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="858 1608 1437 2033" data-label="Image"> </div>		



公園内やその周辺には、噴水が上がる水辺広場や築山、ドッグランなど多くの方が楽しむことができる施設が整っています。また、平地林の中で楽しめるアスレチックやバーベキュー場もあり、平地林の中でゆっくりと過ごすことができます。



(里山探訪の見どころ)

公園の一面は、歴史的な自然環境を後世にわたり保全するトラスト地として公有地化され、生態系を育てています。平地林内には散策路が整備されており、キンランやサイハイランが観賞できるとともに、野鳥のコゲラが木をたたく音が響きます。

(イベント情報)

○ネイチャーイベント

平地林を活用した自然体験型のイベントです。クラフト体験や自然観察会(森のビンゴゲーム)を実施し、平地林の空間を感じ、知っていただく機会とするとともに、世代間交流の場となっています。



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○農業遺産により生まれたオープンフォレスト

豊かな緑に囲まれた令和の森公園は、地域住民の憩いの場となっています。地域ボランティアにより手入れされ、地域全体で後世に伝承する取組が根付いています。オープンフォレストを散策することで里山の野草が見られるとともに、地域の方々が演奏会や撮影、環境教育の場にも利用される身近な公園です。歴史と未来への価値の共有が深まる場所となっています。

<p>ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)</p>	<p>さと こぶしの里 (公園) オープンフォレスト</p>	<p>構成庭園の 所在地</p>	<p>埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢 1081 番地 1 (ライフバス『大日本印刷前』下車 徒歩 17分)</p>
<p>3 構成庭園 の概要 (※2)</p>	<div data-bbox="395 338 1449 1021" data-label="Image"> </div> <p>【開園面積】 8,918 m² 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 (ホタル観賞期間：毎年5月末から6月末) 【施設管理者】 三芳町 (ホタル育成管理：竹間沢ほたる育成会) 【その他】 平地林の中に湧き水がわく、美しい公園となります。春にはこぶしの花が咲き、林下にも多くの植物が咲いており、中でもニリンソウの白い可憐な花を親しむ方も多いです。</p> <p>昔は、一面水田が広がり、毎年7月頃になるとホタルが自然に飛び交っていました。里山の暮らしの中で、庭先からもホタルの光に親しんできました。</p> <p>しかし、周辺は都市化が進み、いつしかホタルの姿も見られなくなりました。この景色を懐かしむ有志により平成14年に竹間沢ほたる育成会が発足しました。現在、竹間沢ほたる育成会は30名の会員が在籍し、里山の景色を後世に伝えるため取り組んでいます。また、地元小学生の環境学習の機会としてこの公園を活用する活動や、生育したホタルの幼虫を小学生と放流することで、地域参加の活性化と郷土愛を育てています。</p> <div data-bbox="794 1312 1433 2011" data-label="Image"> </div>		

(里山探訪の見どころ)

平地林の中に水が流れる光景、ホタルの飛び交う光景、四季折々の草花が咲く光景、様々な里山の光景に出会える公園です。時代を超えて、地域が守り、愛する憩いの場となります。

(イベント情報)

○ホタル観賞会

ホタルが飛び交う時期を広く周知し、竹間沢ほたる育成会が現地で夜間の観賞環境を整えています。



(ホタルイメージ動画)



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○農業遺産により生まれたオープンフォレスト

こぶしの里は当地域で継承されてきた平地林に親しめる場所として、一般開放された公園となっています。地域で後世に残すオープンフォレストとして、草花の観賞やホタルの観賞会など、里山の光景に触れることができる貴重な場所となっています。

<p>ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)</p>	<p>きゅうしまだけじゅうたく 旧島田家住宅 オープンファーム</p>	<p>構成庭園の 所在地</p>	<p>埼玉県入間郡三芳町大字上富 1279 番地 3 (ライフバス『上富小学校』下車)</p>
<p>4 構成庭園 の概要 (※2)</p>	<div data-bbox="411 331 1423 990" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="411 1025 702 1187"> 【開園面積】 2,100 m² 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 三芳町 【その他】 </p> <p data-bbox="391 1187 821 1668"> 江戸時代文化・文政期(1804～1829年)に建築されたと考えられる茅葺屋根の民家住宅。三富開拓がさつまいもの導入により豊かになり、人々の学習の欲求が高まった江戸時代後期に、島田伴完はこの一室で寺子屋を始めました。集まった子弟たちに読み・書きだけでなく、質素儉約や食物の大切さなども説き、地域の教育の中心となっていました。当地には三富開拓三百年を記念し、平成8年に移築復元され、「現代の寺子屋」として、郷土学習教室や交流の場に利用されています。 </p> <p data-bbox="391 1668 821 1960"> 江戸時代の農家では、庭は作業場として利用されていました。この旧島田家住宅では、毎年さつまいもの苗床を設置し、当時の面影を再現するとともに、庭の周囲にはサクラソウなどの花が季節を告げています。訪れた方々は古民家の軒先に座り、里山の庭先から歴史に思いを馳せています。 </p> <div data-bbox="849 1227 1439 1608" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="849 1662 1439 2033" data-label="Image"> </div>		

(里山探訪の見どころ)

江戸時代の里山の暮らしに思いを馳せる空間があります。庭先には里山の草花が咲くなど、里の風景に色を添えています。日本農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の情報発信拠点となっており、価値の共有が広がる場となっています。

(イベント情報)

○カミトメマルシェ

旧島田家住宅の庭を活用し、地域の農家、店舗が集まり開催されるマーケットです。上富地域に住み、「自分達でできることから」という思いから始まりました。周りを少しずつ巻き込みながら、地域を良く知っていただく交流の場が広がっています。



(施設紹介動画)

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○日本農業遺産「武蔵野の落ち葉堆肥農法」

江戸時代の生活を感じることが出来る古民家として、農業遺産の情報発信拠点となっています。農業遺産が受け継がれてきた歴史を感じる場所です。

○農業遺産により生まれたオープンファーム

当地域の農家の庭は農作業をする場となっていました。里山の雰囲気を残す庭で、様々なイベントも開催されています。庭の周囲には草花が色を添える中で、穏やかな時間が流れています。

<p>ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)</p>	<p>な はな はなばたけ 菜の花・そばの花畑 オープンファーム</p>	<p>構成庭園の 所在地</p>	<p>埼玉県入間郡三芳町(北永井・上富・竹間沢地区に分布) (菜の花畑：ライフバス『新開』下車 徒歩5分) (そばの花畑：ライフバス『三協前』下車 徒歩8分)</p>
<p>5 構成庭園 の概要 (※2)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【開園面積】蕎麦 年2回 15ha 菜の花 2ha 【入園料金】無料 【公開時期】夏そば栽培 5月下旬～6月上旬 秋そば栽培 9月下旬～10月上旬 菜の花栽培 3月下旬～4月上旬 【施設管理者】株式会社エム・ファーム 【その他】 遊休農地対策のため、平成7年に蕎麦の栽培をスタートしました。収穫した蕎麦はそばの実・そば粉を加工し、地元や全国の蕎麦屋さんにお使いいただいています。蕎麦は白い可憐な花が一面咲き誇ります。夜には雪明りのような幻想的な景色が楽しめます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>		

また、菜の花の栽培は平成 22 年に三芳町商工会のまちづくり協議会事業の一環として開始しました。収穫した菜の花は搾油し、三芳町商工会が販売しています。春の訪れとともに黄色い花が広がり、地元の風物詩となっています。



豊かな土壌にもかかわらず遊休農地となってしまった土地を活用した取組ですが、新しい景色を生み出すこととなりました。この色鮮やかな空間の中で、園内散策、写真撮影を楽しんでいただく取組を進めています。地域の特色である農地を活かした新たな庭園文化を創出しています。

また、管理維持のため高齢者雇用等も行っており、まちづくりに寄与する取組として地域に根付いています。

(里山探訪の見どころ)

都市近郊にある中で、農のある環境の維持は重要な課題となっています。こうした中で、遊休農地となっている農地を活用した蕎麦、菜の花の作付けは、後世に里山風景を残すことにつながる取組となります。里山に広がる一面の花は、現代の魅力が合わさった光景を創り出しています。



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○農業遺産により生まれたオープンファーム

「落ち葉堆肥農法」により豊かな土壌が生まれ、都市近郊にありながら当地域には農地が多く残っていることが特長となっています。そのような中で、遊休農地を活用し、町の特産品を作付けすることで地域の活性化を図るとともに、地域住民が憩えるように農地型庭園の発想による新たな庭園文化として発展を目指しています。

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	たもんいん 多聞院 オープンガーデン	構成庭園の 所在地	埼玉県所沢市中富 1501 番地 (ライフバス『多福寺』下車 徒歩 14 分)
6 構成庭園 の概要 (※2)	<div data-bbox="405 331 1426 945" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="405 992 683 1153" data-label="List-Group"> <ul style="list-style-type: none"> 【開園面積】 2.3ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 多聞院 【その他】 </div> <div data-bbox="389 1155 829 1346" data-label="Text"> <p>古代から中世には原野が広がっていた三芳の地域でしたが、近世になると開拓の手が加えられることとなり、元禄7年(1694年)、川越藩主柳沢吉保は三富新田の開拓に着手しました。</p> </div> <div data-bbox="389 1348 829 1861" data-label="Text"> <p>吉保は開拓農民の心の拠り所とするため、元禄9年(1696年)祈願寺として多聞院を創建しました。開山は江戸四谷愛染院第四世榮任和尚。建立当時の毘沙門社は、御宮・拝殿・別当寮・鳥居からなっていました。毘沙門堂には、武田信玄の守り本尊であった黄金の毘沙門天が祀られています。信玄はこの毘沙門天(身の丈一寸四分)を兜の中に納め川中島の合戦など数々の戦に出陣しました。信玄歿後、毘沙門天像は縁あって吉保の手に渡り、安置されました。なお、毘沙門堂の前には一対の虎の石像が奉納されており、これは毘沙門天の御使が虎であることに由来します。</p> </div> <div data-bbox="389 1863 1449 1926" data-label="Text"> <p>身代わり寅の奉納、正月のだるま市など、多聞院は四季を通して多くの参拝者で賑わいます。</p> </div> <div data-bbox="868 976 1426 1393" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="868 1431 1426 1809" data-label="Image"> </div>		



(里山探訪の見どころ)

古くから里山の平地林でも親しまれてきた絶滅危惧種Ⅱ類の「クマガイソウ」が4月中旬頃に見頃を迎えます。また、5月頃には300本を超える牡丹が咲くなど、里山で愛されてきた草花を楽しむことができます。

(鑑賞できる植物)

3月：白根葵、片栗

4月：クマガイソウ、雪餅草、まむし草、武蔵燈、八角蓮、海老根、スズラン
一人静、姫委蕤（ヒメイズイ）、浦島草

5月：牡丹、芍薬（シャクヤク）、梅檀（センダン）、アメリカロウバイ

7月：レンゲショウマ

11月：大文字草、雪割草、ロビラキ

12月：ロウバイ

(イベント情報)

○元旦：毘沙門天初護摩供

○お彼岸中日：春彼岸会

○4月中旬～5月初旬：ぼたん祭り

○5月1日：寅まつり ※航空公園駅より臨時無料バス有り

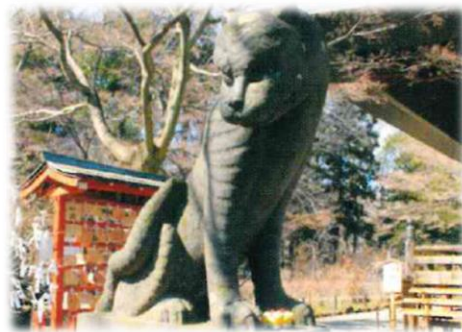
○8月13日：お施餓鬼会

○お彼岸中日：秋彼岸会

○11月中旬：もみじ祭り

○12月冬至：星まつり

○12月27日～30日：かまじめ



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○開拓時から地域を精神面で支えてきた寺社としてのオープンガーデン

元禄7年（1694年）、川越藩主柳沢吉保は三富新田の開拓に着手しました。そして開拓農民のために、精神的な支柱となる2つの寺社が元禄9年（1696年）に建立されました。1つは開拓農民の菩提寺となる多福寺、1つは祈祷所となる毘沙門社（別当として多聞院）であり、地域の葬祭だけでなく生活にも深く関わる信仰・文化の拠り所となりました。

地域とともに歴史を重ねてきた寺社の境内は、武蔵野の面影を残す平地林や貴重な植物も生育しています。地域の住民は四季折々の風景に触れる境内散策に訪れ、現在も心を穏やかに過ごす場となっています。

<p>ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)</p>	<p>たふくじ 多福寺 オープンガーデン</p>	<p>構成庭園の 所在地</p>	<p>埼玉県入間郡三芳町大字上富 1542 番地 (ライフバス『多福寺』下車 徒歩 5 分)</p>
<p>7 構成庭園 の概要 (※2)</p>	<div data-bbox="416 344 1430 1010" data-label="Image"> </div> <p>【開園面積】 4ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 多福寺 【その他】 元禄 7 年 (1694 年)、川越藩主柳沢吉保は三富新田の開拓に着手しました。三富新田の開拓には、出身地の異なる農家が集まり、協力して開拓を進めたため、農村としてのまとまりや連帯感情を作り出す必要があり、元禄 9 年 (1696 年) 8 月、吉保は菩提寺として上富に「臨済宗三富山多福禅寺」を建立しました。それまでは、三富新田に入村した農家の菩提寺は、上富村が亀久保村 (現ふじみ野市) 地蔵院、中富村・下富村は大塚村 (現川越市) 西福寺としていましたが、多福寺建立によって三ヶ村とも菩提寺を多福寺とし、三富新田の農家の精神的な支えとなりました。</p> <p>春はしだれ桜、秋には紅葉と静寂の中に季節を感じ、訪れる人の心を穏やかにしてくれています。</p> <div data-bbox="804 1205 1437 2007" data-label="Image"> </div>		



境内は、総門からまっすぐのびた参道があり、その先に建立された山門には十六羅漢が人々の喜怒哀楽の表情を湛えて安置されております。また、開拓当時の井戸が残されており、この井戸は「元禄の井戸」と呼ばれ、開拓当初、上富村に4か所、中富村に4か所、下富村に3か所の計11か所が掘られ、現存する「元禄の井戸」は、多福寺と多聞院の2か所のみで、いずれも深さは約25mを測ります。いかに水の得難いところであったかがわかります。

また、多福寺創建の際、開発を直接指導したとされる家臣曾根権太夫が寄進した「元禄の銅鐘」も残されています。また、本堂裏の庭園は元禄期の造園になる枯山水で、訪れる人を静寂の中へ誘ってくれます。

多福寺は3か村の菩提寺として、今も人々の信仰を集めています。

(里山探訪の見どころ)

平地林の中に巖かで静かな神聖なる空間を感じる場所です。平地林の林床には、絶滅危惧種Ⅱ類のキンランが自生し、可憐な黄色い花を咲かせます。

(イベント情報)

○1月：落ち葉掃き体験



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○開拓時から地域を精神面で支えてきた寺社としてのオープンガーデン
元禄7年(1694年)、川越藩主柳沢吉保は三富新田の開拓に着手しました。そして開拓農民のために、精神的な支柱となる2つの寺社が元禄9年(1696年)に建立されました。1つは開拓農民の菩提寺となる多福寺、1つは祈祷所となる毘沙門社(別当として多聞院)であり、地域の葬祭だけでなく生活にも深く関わる信仰・文化の拠り所となりました。
地域とともに歴史を重ねてきた寺社の境内は、武蔵野の面影を残す平地林や貴重な植物も生育しています。地域の住民は四季折々の風景に触れる境内散策に訪れ、現在も心を穏やかに過ごす場となっています。

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	つき はら 月の原ガーデン オープンガーデン	構成庭園の 所在地	埼玉県入間郡三芳町大字上富 1003 番地 (ライフバス『下組』下車 徒歩 2分)
8 構成庭園 の概要 (※2)	<div data-bbox="391 324 1452 1019" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="406 1052 710 1220"> 【開園面積】 0.5ha 【入園料金】 無料 【公開時期】 通年 【施設管理者】 はやし園 【その他】 </p> <p data-bbox="391 1220 1452 1444"> 三富新田は 320 年以上前の江戸時代初期 元禄 7 年 (1694 年)、川越藩主の柳沢吉保が開拓を命じ、産物が富める村、人々の心が富める村になるようにと、論語の中より“富”と名付けました。元禄の開拓当時より続くさつまいも農家の「はやし園」では、当地の食と自然と歴史を楽しんでいただけるように「農園レストラン伊左衛門」と「三富 月の原ガーデン」を開設。“月の原”には江戸時代の歴代の川越藩主が、武蔵野の名残を残すこの原に昇る仲秋の名月の観賞に訪れたことから名づけられた月の名所の由来があります。 </p> <div data-bbox="391 1500 1085 1948" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1125 1500 1428 1993" data-label="Image"> </div>		

月の原ガーデンのローズガーデンには、ハーブガーデンとベジタブルガーデンと共に、数百本のイングリッシュローズやランブラーローズをお楽しみいただけます。歴史ある三富新田地割遺跡のランドスケープを借景とした、過去と現在の価値の融合。新たな庭園文化の創出を目指しています。



(里山探訪の見どころ)

江戸時代の開拓期から続く農家の敷地に生まれた英国風ガーデン。三富の特長的な短冊状の地割や平地林を借景とした新たな庭園文化をお楽しみいただけます。

(イベント情報)

○いも掘り体験

ガーデンを抜けた先は、三富地域特長の長い畝が広がります。さつまいもの収穫期に限定されるいも掘り体験とガーデンの散策を楽しむことができ、好評をいただいています。

開催時期：9月中旬～ ※お芋がなくなるまで



(庭園紹介動画)

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

○新たな庭園文化のはじまり (オープンガーデン)

日本農業遺産「落ち葉堆肥農法」が継承される地域で、新たな庭園文化を創出するオープンガーデンです。畑地の長い畝が広がる雄大な光景を背景としたガーデンは、当地域における特長的な新しい文化のはじまりを感じることができます。

拠点機能（探訪部門のみ）

ふりがな 拠点機能 の名称 (※1)	みよし野ガーデンツーリズム協議会	拠点機能の 所在地	埼玉県入間郡三芳町大字藤久保 1100 番地 1
拠点機能 の概要 (※2)	<p>【活動期間】令和3年～</p> <p>【その他】</p> <p>これまで、三芳町における庭園の所有者は、各々が工夫を凝らし、管理運営が行われてきました。そして、三芳町観光産業課を中心とした観光施策に参加協力し、連携を深めてきたところです。こうした中、「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が世界農業遺産の認定を見据える中で、観光資源を魅力的に磨いていくことが重要であると考えています。</p> <p>そこで、地域の特長を活かした庭園の所有者が集い、ガーデンツーリズムとして拡充させることを目的として、当協議会が設置されました。当協議会では、当地域の庭園文化の発展における中心的な組織となり、次のような事項に取り組みます。</p> <p>(1) 当地域における庭園文化の情報発信 農業遺産により生まれた当地域の特色ある庭園文化を情報発信ツールやリーフレットの配布等により発信するもの</p> <p>(2) 庭園文化発展に係る研修 庭園文化、事業研究に関して、定期的に研修を開催するもの</p> <p>(3) イベント開催における連携調整 各会員が開催するイベント等において、相乗効果をもたらす連携を模索し、調整するもの</p> <p>(4) 構成する会員間の情報共有 各会員の取組情報を会員間で共有し、相互研鑽に努めるもの</p> <p>(5) 未来への価値の継承に係る啓発活動 未来に向けた価値の継承につなげる取組として、子どもたち等への体験、教育の場を創り出すもの</p>		

実施する事業と実施体制

(1) これまでの取組	
<p>①体験落ち葉掃き（毎年1月頃開催） 多福寺の平地林において、古くから各農家で行われてきた落ち葉掃きを体験するイベント。地域の特産品を賞味する機会を設け、平地林を保全する意義を感じていただいています。</p> <p>②そば打ち体験（令和元年8月開催） 旧島田家住宅を活用し、近隣の野菜収穫からそば打ちまでを体験するイベント。古民家から庭先に思いを馳せながらそばが食べられる貴重な機会となっています。</p> <p>③おいもの町でさつまいも収穫&宿坊体験ツアー（平成30年11月） 旧島田家住宅から、さつまいも収穫に向かい、多聞院の宿坊に泊まり、翌日は三富今昔村における散策や体験が可能なツアーを開催しました。</p> <p>④ホテル観賞会（毎年5月～6月） こぶしの里において、竹間沢ほたる育成会が中心となり、里山の庭先で見たホテルの光景を観賞する場を設けている。</p> <p>⑤三芳の春を摘みにいこう-菜の花摘み取り（令和2年3月～4月） 竹間沢地区の菜の花畑を散策し、摘み取り体験を実施。また、近隣のこぶしの里でもこぶしの花、ニンソウ、ショカツサイなどの山野草も観賞できる春を感じるイベントです。</p> <p>⑥ぼたん祭（毎年4月～5月） 多聞院では、300本以上の牡丹が咲く時期に多くの方が庭園散策に訪れています。</p> <p>⑦世界一のいも掘りまつり（毎年9月） いも掘り体験とともに、旧島田家住宅の庭で展示イベント、食のブースやスタンプラリー、ひまわり迷路など、古民家を拠点とした地域を代表する一大イベントとなっています。</p>	
(2) 今後の取組	
<p>日本農業遺産とともに培われてきた庭園文化として、さらに魅力を高め、将来ビジョンの実現を果たすため、各構成庭園による連携を深め、相乗効果をもたらすガーデンツーリズムを追求します。</p> <p>みよし野ガーデンツーリズム事業は次のとおり予定しています。</p> <p>①ツアーコンシェルジュ育成事業 ②プロモーション事業 ③さくらまつりの開催 ④フラワーカレンダー事業 ⑤ガーデンツーリズム魅力向上事業</p>	
(3) 協議会の構成員	
<p>【会長】 (株) エムファーム 【副会長】 竹間沢ほたる育成会 【監事】 石坂産業 (株) 【会員】 はやし園 多福寺 多聞院 三芳町</p>	
(4) 事業の実施体制	
<p>【決定機関】 総会（毎年度開催：方針・事業計画等の決定） 【実施主体】 事業計画に基づき、各構成会員により実施 事務局により連携調整を支援 事業結果は総会に報告 【情報発信】 SNS 情報発信は各構成会員により実施 HP 情報発信は事務局が担当 【事務局】 三芳町観光産業課</p>	
(5) 具体的な事業	様式 1 - 9 のとおり

具体的な事業一覧表

事業名①	ツアーコンシェルジュ育成事業		
実施主体	みよし野ガーデンツーリズム協議会	事業期間	令和 4 年度 ~ 年度
実施施設	旧島田家住宅・多福寺境内・令和の森公園・中央公民館		
事業概要	<p>これまで、三芳町観光産業課が実施してきた「農業遺産コンシェルジュ養成講座」において、当地ガーデンツーリズムの魅力を伝える要素を加え、ツアーコンシェルジュとして観光客や地域住民に伝統農法を伝える人材を育成します。また、コンシェルジュが活躍できるガイドツアーを今後拡充し、来訪される方に当地の魅力を伝えていきます。</p> <p>【養成講座内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三富地域の歴史（庭園文化・価値観及び社会組織） ・平地林（ヤマ）の生物 ・落ち葉堆肥農法 ・落ち葉掃き体験 ・ガーデンツーリズム（構成庭園等の魅力） <p>【ガイドツアー（案）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）外国人観光客向け農業遺産ツアー ・（仮称）季節ごとのおすすめ探訪ツアー <p><里山探訪に期待する効果></p> <p>日本農業遺産の認定により、その価値を広く知っていただき、伝承していく使命があります。農業遺産に関する歴史や文化を伝える人材を育成し、武蔵野の里山の暮らしとともに紡がれてきた魅力を伝え、来訪者の探訪に付加価値を加えていく体制を目指します。</p> <p>（令和 3 年度農業遺産コンシェルジュ養成講座写真）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

具体的な事業一覧表

事業名②	プロモーション事業		
実施主体	みよし野ガーデンツーリズム協議会	事業期間	令和 5 年度 ～ 年度
実施施設	各構成庭園等・三芳町観光産業課		
事業概要	<p>【ホームページ作成】 協議会のホームページを作成し、構成庭園の紹介、イベント情報の発信など、魅力ある情報を発信します。ホームページの記事は事務局が集約し更新を行います。</p> <p>【SNSによる情報発信】 協議会の SNS アカウントを取得し、各施設から即時性のある情報発信を行います。また写真掲載により、旬な開花情報や見どころ情報をお届けします。</p> <div data-bbox="454 869 1270 1550" style="border: 1px solid #ccc; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>みよし観光情報 (埼玉県三芳町) ...</p> <p>8月12日 · 🌐</p> <p>皆さん、こんにちは。観光特派員のクララです。三芳町上富と所沢市の境にある多間院というお寺があります。三富の開拓時に開拓農民の檀家寺として多福寺を、また祈願所と鎮守の宮として多間院が創建されました。こちらは「牡丹の寺」として有名で300株の牡丹が咲く名所となっています。夏の時期は牡丹の花は見られませんが、木々が多く茂り、強い太陽の日差しを遮ってお寺のピンとした空気が暑さを和らげます。御本尊は武田信玄の守り本尊であったとされ、12年に1度、寅年の5月1日に開帳されるそうです。次は2022年の5月1日ですので、覚えておいてください。何も無い日でもぶらっと訪れることの出来るお寺さんです。ぜひ、牡丹の時期もご紹介しますね。</p>  </div> <p>【ガイドブックの作成】 構成する庭園等を分かりやすく整理し、オススメルートをご案内し、探訪時に携えていただけるようなガイドブックを作成します。</p> <p>【みよし野ガーデンツーリズムロゴの作成】 統一的なコンセプトデザインを使用し、みよし野ガーデンツーリズム事業としての一貫性を表現するため、共通に使用できるロゴを作成します。</p> <p><里山探訪に期待する効果> 当地域を訪問してみたくなる見どころ情報を掲載していきます。探訪を巡る中での付加価値を日本農業遺産に伴う歴史、文化、生物多様性など、様々な情報も交えながら里山探訪の魅力をお伝えします。</p>		

具体的な事業一覧表

事業名③	さくらまつり		
実施主体	三芳町	事業期間	令和4年度～年度
実施施設	令和の森公園		
事業概要	<p>桜が咲き誇る令和の森公園にて、桜の開花に合わせた「さくらまつり」を開催するものです。広く桜の名所として魅力を高めるため、来訪者の充実した滞在時間を過ごしていただけるように、雑木の庭となる平地林散策やガーデンエリアにも誘導を図るとともに、食のブースや地域特産品の紹介ブースを展開していきます。また、夜間にはライトアップを行い、里山の夜に映える桜を演出します。 (開催時期：3月下旬～4月上旬)</p> <p><里山探訪に期待する効果> 多く集客が期待されるイベントであり、当地域の魅力を発信する機会となります。桜の下を通る散策路は平地林に繋がっており、様々な景色を楽しむことができます。イベント会場では、来場者に里山ツーリズムを紹介する機会を設け、当地域への再訪のきっかけを創出します。</p> <p>(桜の開花写真)</p>   		

具体的な事業一覧表

事業名④	フラワーカレンダー事業			
実施主体	みよし野ガーデンツーリズム協議会	事業期間	令和5年度～年度	
実施施設	各構成庭園等			
事業概要	<p>各構成する庭園等で観賞できる花カレンダーを作成し、地域での花の見頃をリレー形式で盛り上げるものです。フラワーカレンダーを作成し、情報発信ツールで花の見どころ情報をお伝えすることで、何度来ても楽しめるツーリズムを目指します。</p> <p>(構成する庭園等で観賞できる花(例))</p>			
	3月			
	4月	菜の花	こぶし(こぶしの里)	桜(令和の森公園)
	5月		きんらん(多福寺)	
	6月			
	7・8月	バラ(月の原ガーデン)	ユリ(三富今昔村)	そばの花
	9・10月		秋バラ(月の原ガーデン)	
	11・12月		紅葉(多聞院)	
	<p><里山探訪に期待する効果> 里山景色の中で、写真スポットや周辺の見どころもお伝えし、里山探訪のきっかけづくりを演出します。</p>			

具体的な事業一覧表

事業名⑤	ガーデンツーリズム魅力向上事業		
実施主体	みよし野ガーデンツーリズム協議会	事業期間	令和 4 年度 ～ 年度
実施施設	各構成庭園等		
事業概要	<p>これまで各構成する庭園等において、更なる魅力の向上を図るため、施設機能を充実するものです。</p> <p>(整備内容)</p> <p>○令和の森公園 せせらぎ水辺広場周辺に色鮮やかな花を植え、感性豊かな広場として整備します。</p> <p>○旧島田家住宅 古民家の庭を活用し、里山の暮らして身近だった草花を植栽し、プレート等により紹介するものです。</p> <p>○こぶしの里 水生植物を觀賞できるスペースを設置し、地域で湧き水が出る場所の特長を活かしてまいります。</p> <p>○休憩施設の拡充 平地林内や農家の軒先等に休憩や飲食スペースとしてベンチ等が設置されていますが、探訪時の休憩施設として、さらなる拡充を検討してまいります。</p> <p>○三芳スマート IC フル化に伴う拠点創出 関越自動車道三芳スマート IC について、フル化に向けた整備を引き続き進めるとともに、探訪の拠点となる施設の創出を検討してまいります。(2022 年 10 月現在)</p> <p><里山探訪に期待する効果> これまで観光スポットとならなかった場所で、当地域のガーデンツーリズムの視点から目的地となるために発展していきたいと考えています。各目的地で里山の時間を楽しむ場所や気づきを生み出す場所、一つの探訪で様々な景色を楽しむための付加価値の創出など、持続可能な整備を続けていきます。</p>		